

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第672集

くじゅうざわ Ⅲ ひらの はら Ⅲ とちほら Ⅲ
九重沢Ⅲ・平野原Ⅲ・栃洞Ⅲ・
にいぎとあたごうら
新里愛宕裏遺跡発掘調査報告書

東北横断自動車道路釜石秋田線関連遺跡発掘調査

2017

国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所
(公財)岩手県文化振興事業団

九重沢Ⅲ・平野原Ⅲ・栃洞Ⅲ・ 新里愛宕裏遺跡発掘調査報告書

東北横断自動車道路釜石秋田線関連遺跡発掘調査

序

岩手県には、旧石器時代をはじめとする数多くの遺跡と埋蔵文化財包蔵地が各地に分布しております。これら先人が創造してきた貴重な文化遺産を保存し、後世に伝えていくことは私達県民に課せられた重大な責務でもあります。

東日本大震災から5年が過ぎ、震災復興事業に位置づけられた道路整備事業も本格化して参りました。一日も早い復興が望まれる中、当事業団埋蔵文化財センターとしても復興と埋蔵文化財保護の両立を念頭に限られた時間の中で、発掘調査の完遂と迅速化に努めているところであります。

本報告書は、東北横断自動車道路釜石秋田線関連整備事業に関連して、平成26年度と27年度に発掘調査を行った遠野市に所在する九重沢Ⅲ・平野原Ⅲ・栃洞Ⅲ・新里愛宕裏遺跡の発掘調査結果を収録したものであります。

発掘調査によって縄文時代中期後葉～後期の集落跡、食料貯蔵を目的としたフラスコ状土坑、陥し穴状土坑による狩猟の場、中世後期～近世にかけて墓壇等の新たな資料の発見がありました。

この報告書が広く活用され、斯学の研究に寄与するとともに、埋蔵文化財に対する理解の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成にご協力とご支援を賜りました、国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所をはじめとする、関係各位に衷心より感謝申し上げます。

平成29年3月

公益財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 菅野 洋樹

例 言

- 1 本報告書は、岩手県遠野市遠野町29地割15番5ほかに所在する九重沢Ⅲ遺跡、同市上郷町平倉34地割31番2ほかに所在する平野原Ⅲ遺跡、同市遠野町31地割63番2ほかに所在する栃洞Ⅲ遺跡、同市綾織町新里31地割43番3ほかに所在する新里愛宕裏遺跡の発掘調査結果を収録したものである。
- 2 本遺跡の調査は、東北横断自動車道路釜石秋田線関連遺跡に伴う事前の緊急発掘調査である。調査は、国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所と岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課との協議を経て、公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 岩手県遺跡台帳における遺跡番号と遺跡略号は以下の通りである。
 - 九重沢Ⅲ遺跡 : 遺跡番号MF55-0071 / 遺跡略号KJSⅢ-14
 - 平野原Ⅲ遺跡 : 遺跡番号MF76-0023 / 遺跡略号HNNⅢ-14
 - 栃洞Ⅲ遺跡 : 遺跡番号MF55-1023 / 遺跡略号THⅢ-14
 - 新里愛宕裏遺跡 : 遺跡番号MF54-0227 / 遺跡略号NAU-14 (平成26年度調査)
/ 遺跡略号NAU-15 (平成27年度調査)
- 4 発掘調査期間、調査面積、担当者は以下の通りである。
 - 九重沢Ⅲ遺跡 : 平成26年4月9日～6月6日 / 1,550㎡ / 巴 亜子・小野寺純也・川村 均
 - 平野原Ⅲ遺跡 : 平成26年9月1日～9月30日 / 1,120㎡ / 巴 亜子・高橋義介
 - 栃洞Ⅲ遺跡 : 平成26年10月6日～11月27日 / 2,330㎡ / 巴 亜子・高橋義介
 - 新里愛宕裏遺跡 : 平成26年5月21日～9月3日 / 3,000㎡ / 小野寺純也・巴 亜子・高橋義介
: 平成27年9月1日～11月13日 / 2,400㎡ / 高橋義介・南野龍太郎・藤田崇志
- 5 室内整理期間、担当者は以下の通りである。
 - 九重沢Ⅲ遺跡 : 平成26年6月2日～7月15日、平成26年10月1日～平成27年3月31日
/ 巴 亜子
 - 平野原Ⅲ遺跡 : 平成27年1月5日～2月13日 / 巴 亜子
 - 栃洞Ⅲ遺跡 : 平成27年2月2日～3月31日 / 高橋義介
 - 新里愛宕裏遺跡 : 平成26年9月1日～平成27年3月31日 / 小野寺純也・高橋義介
: 平成27年11月16日～平成28年3月31日 / 高橋義介・藤田崇志
- 6 報告書の執筆は、第Ⅰ章を国土交通省岩手河川国道事務所、第Ⅱ～Ⅲ章を巴 亜子・藤本玲子、Ⅳ章を巴 亜子、Ⅴ・Ⅵ章を巴 亜子・高橋義介、Ⅶ章を小野寺純也・高橋義介が担当した。
- 7 基準点測量は、(株) イチイ土木コンサルタントに委託した
- 8 航空写真撮影は、東邦航空株式会社に委託した。
- 9 一部の石器実測と図化は、株式会社ランクに委託した。
- 10 各試料の分析・鑑定は次の機関に委託した。
 - 炭化材の樹種同定 / 古代の森研究舎
 - 黒曜石の産地推定 / バリノ・サーヴェイ株式会社
 - 石材・石質鑑定 / 花崗岩研究会
 - 放射性炭素年代測定 / 株式会社加速器分析研究所
- 11 報告書の作成にあたり、下記の方々ならびに機関からご教示とご協力をいただいた。(敬称略)
 - 羽柴直人・八木勝枝 (岩手県立博物館)、佐藤浩彦・黒田篤史 (遠野市教育委員会)

- 12 調査成果は、『平成26・27年度発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財報告書第647・661集等に公表しているが、内容については本書が優先する。
- 13 各調査に関わる諸記録及び出土遺物は、岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

凡 例

- 1 遺構実測図の縮尺は、竪穴住居跡1/40、竪穴状遺構1/50、土坑・陥し穴状土坑1/50、炉跡・焼土遺構1/30を基本としているが、遺構規模に応じ適宜縮尺を変え、各図版にスケールを付した。
- 2 遺構図版中の土器は「P」、石は「S」と表記した。
- 3 層位は、基本層序にローマ数字、遺構の堆積土にはアラビア数字を使用した。
- 4 土層の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帳』を使用した。
- 5 土層の注記には、下記の項目を基準として観察を行った。
 - 粘 性（強・やや強・中・やや弱・弱）
 - しまり（強・やや強・中・やや弱・弱）
 - 混入物（41～50%：多量、31～40%：中量、11～30%：少量、1～10%：微量）
- 6 遺物実測図の縮尺は、土器1/3、石器1/3、土製品1/2、銭貨1/1を基本としているが、遺物の大小に応じ適宜縮尺を変え、各図版にスケールを付した。

目 次

I	調査に至る経過	1
II	地理的・歴史的環境	2
1	地理的環境	2
2	歴史的環境	3
III	野外調査と室内整理の方法	8
1	野外調査の方法	8
2	室内整理の方法	8
IV	九重沢Ⅲ遺跡	9
1	概 要	9
2	室 内 整 理	10
3	基 本 層 序	10
4	検出された遺構	13
(1)	竪穴住居跡	13
(2)	竪穴状遺構	16
(3)	埋設土器	17
(4)	土 坑	17
(5)	焼土遺構	20
(6)	柱穴状土坑	30
(7)	遺物包含層	30
5	出 土 遺 物	30
(1)	縄文土器	30
(2)	土 製 品	32
(3)	石 器	33
6	ま と め	36
V	平野原Ⅲ遺跡	75
1	遺跡の位置	75
2	基 本 層 序	75
3	検出された遺構	75
4	遺構外出土遺物	81
5	ま と め	81

VI	析洞Ⅲ遺跡	97
1	遺跡の位置	97
2	基本層序	97
3	検出された遺構と遺物	97
	(1) 竪穴住居跡	97
	(2) 土坑	99
	(3) 遺構外出土遺物	119
4	まとめ	137
	(1) 竪穴住居跡	137
	(2) 土坑	140
	(3) 陥し穴状土坑	145
	(4) 墓壇	145
VII	新里愛宕裏遺跡	179
1	遺跡の立地	179
2	基本層序	179
3	自然流路	179
4	平成26年度調査で検出された遺構と遺物	189
	(1) 竪穴住居跡	189
	(2) 炉跡	195
	(3) 土坑	196
	(4) 陥し穴状土坑	207
	(5) 焼土遺構	217
	(6) 柱穴状土坑	218
	(7) 遺物包含層	218
5	遺構外出土遺物	220
	(1) 縄文土器	220
	(2) 石器	221
	(3) 土製品	222
6	平成27年度調査で検出された遺構と遺物	252
	(1) 竪穴状遺構	252
	(2) 土坑	256
	(3) 陥し穴状土坑	265
	(4) 焼土遺構	268
	(5) 柱穴状土坑	268
	(6) 遺構外出土遺物	269
7	まとめ	284
	(1) 出土遺物	284
	(2) 遺構	285
	(3) 小括	286

Ⅷ 自然化学分析	353
1 九重沢Ⅲ遺跡から出土した炭化材の樹種	353
2 九重沢Ⅲ遺跡における放射性炭素年代 (AMS測定)	355
3 九重沢Ⅲ遺跡出土黒曜石の産地推定	358
4 平野原Ⅲ遺跡から出土した炭化材の樹種	364
5 平野原Ⅲ遺跡における放射性炭素年代 (AMS測定)	365
6 栃洞Ⅲ遺跡から出土した炭化材の樹種	368
7 栃洞Ⅲ遺跡における放射性炭素年代 (AMS測定)	370
8 新里愛宕裏遺跡における放射性炭素年代 (1) (AMS測定)	373
9 新里愛宕裏遺跡における放射性炭素年代 (2) (AMS測定)	377
報告書抄録	380

図版目次

< I ~ III章 >

第1図 岩手県全体図	1	第4図 周辺遺跡分布図 (1)	5
第2図 遺跡位置図	2	第5図 周辺遺跡分布図 (2)	7
第3図 地形分類図	4		
< 九重沢Ⅲ遺跡 >			
第1図 基本層序	11	第10図 1~4号焼土、柱穴状土坑	28
第2図 遺構配置図	12	第11図 遺構内出土遺物 (1)	37
第3図 1号竪穴住居跡	21	第12図 遺構内出土遺物 (2)	38
第4図 2号竪穴住居跡	22	第13図 遺構内出土遺物 (3)	39
第5図 3号竪穴住居跡	23	第14図 遺構内出土遺物 (4)、 遺構外出土遺物 (1)	40
第6図 4号竪穴住居跡	24	第15図 遺構外出土遺物 (2)	41
第7図 5号竪穴住居跡、 1号竪穴状遺構	25	第16図 土製品	42
第8図 2号竪穴状遺構、1号埋設土器、 1号土坑	26	第17図 石器 (1)	43
第9図 2~8号土坑	27	第18図 石器 (2)	44
< 平野原Ⅲ遺跡 >			
第1図 基本層序	75	第6図 11~13号土坑	85
第2図 遺構配置図	76	第7図 14~16号土坑	86
第3図 1~4号土坑	82	第8図 17・18号土坑	87
第4図 5~7号土坑	83	第9図 遺構外出土遺物	88
第5図 8~10号土坑	84	第10図 遺構分布図	90
< 栃洞Ⅲ遺跡 >			
第1図 遺構配置図	98	第3図 1・2・7号土坑	121
第2図 1号竪穴住居跡	120	第4図 3~5号土坑	122

第5图	6·8·9·11号土坑	123	第17图	60·61号土坑	135
第6图	10·12·13·17号土坑	124	第18图	65·66·68~70号土坑	136
第7图	14~16·18~20号土坑	125	第19图	71·72号土坑	137
第8图	21~24·33·37号土坑	126	第20图	遗構内出土遺物(1)	138
第9图	25~27·31·67号土坑	127	第21图	遺構内出土遺物(2)	139
第10图	28·30·32·34·35号土坑	128	第22图	遺構外出土遺物(1)	140
第11图	29·36·50号土坑	129	第23图	遺構内出土遺物(3)	141
第12图	38·39·40·42·44号土坑	130	第24图	遺構内出土遺物(4)	142
第13图	41·43·45·46·56号土坑	131	第25图	遺構内出土遺物(5)	143
第14图	47~49·51号土坑	132	第26图	遺構外出土遺物(2)	144
第15图	52~55·57号土坑	133	第27图	遺構分布图(1)	147
第16图	58·59·62~64号土坑	134	第28图	遺構分布图(2)	148
<新里爱宕裏遺跡>					
第1图	遺跡位置图	180	第32图	土坑出土遺物(5)	235
第2图	基本層序模式图	181	第33图	土坑出土遺物(6)	236
第3图	自然流路断面图	182	第34图	1号燒土遺構、自然流路、 北側調査区遺物包含層 出土遺物(1)	237
第4图	基準点配置图	183	第35图	北側調査区遺物包含層 出土遺物(2)	238
第5图	遺構配置图(1)	184	第36图	北側調査区遺物包含層(3)、 遺構外出土遺物(1)	239
第6图	遺構配置图(2)	185	第37图	遺構外出土遺物(2)	240
第7图	遺構配置图(3)	186	第38图	遺構外出土遺物(3)	241
第8图	遺構配置图(4)	187	第39图	遺構外出土遺物(4)	242
第9图	遺構配置图(5)	188	第40图	遺構外出土遺物(5)	243
第10图	1号竪穴住居跡	190	第41图	遺構外出土遺物(6)	244
第11图	1号竪穴住居跡、複式炉	191	第42图	遺構外出土遺物(7)	245
第12图	2号竪穴住居跡	193	第43图	土製品	246
第13图	3号竪穴住居跡	194	第44图	石器(1)	247
第14图	1号炉跡	195	第45图	石器(2)	248
第15图	1~5号土坑	209	第46图	石器(3)	249
第16图	6~10号土坑	210	第47图	石器(4)	250
第17图	11~16号土坑	211	第48图	石器(5)	251
第18图	17~22号土坑	212	第49图	1号竪穴狀遺構	252
第19图	23~27号土坑	213	第50图	遺構配置图(6)	253
第20图	28~32号土坑	214	第51图	遺構配置图(7)	254
第21图	33~37号土坑	215	第52图	遺構配置图(8)	255
第22图	1~4号陥し穴狀土坑	216	第53图	38~43号土坑	262
第23图	5号陥し穴狀土坑	217	第54图	44~49号土坑	263
第24图	1号燒土遺構	217	第55图	50~55号土坑	264
第25图	柱穴狀土坑	218	第56图	6~9号陥し穴狀土坑	266
第26图	遺物包含層	219	第57图	10号陥し穴狀土坑	267
第27图	1·2号竪穴住居跡出土遺物	230	第58图	2号燒土遺構	268
第28图	2·3号竪穴住居跡、土坑 出土遺物(1)	231	第59图	柱穴狀土坑8~11	269
第29图	土坑出土遺物(2)	232			
第30图	土坑出土遺物(3)	233			
第31图	土坑出土遺物(4)	234			

第60回	堅穴状遺構・土坑出土遺物 (7)	272	第64回	遺構外出土遺物 (9)	276
第61回	土坑出土遺物 (8)	273	第65回	遺構内出土遺物 (10)	277
第62回	土坑出土遺物 (9)、 陥し穴状土坑出土遺物	274	第66回	遺構内出土遺物 (11)	278
第63回	遺構外出土遺物 (8)	275	第67回	遺構外出土遺物 (12)	279
			第68回	遺構外出土遺物 (13)	280

表 目 次

< I ~ III 章 >

第1表	周辺遺跡 (1)	6	第2表	周辺遺跡 (2)	7
< 九重沢 III 遺跡 >					
第1表	堅穴住居跡・堅穴状遺構一覽	29	第8表	土器観察表 (4)	48
第2表	埋設土器・土坑一覽	29	第9表	ミニチュア土器観察表	49
第3表	焼土遺構一覽	29	第10表	土偶観察表	49
第4表	柱穴状土坑一覽	29	第11表	土製品観察表	50
第5表	土器観察表 (1)	45	第12表	石器観察表 (1)	50
第6表	土器観察表 (2)	46	第13表	石器観察表 (2)	51
第7表	土器観察表 (3)	47	第14表	石器観察表 (3)	52
< 平野原 III 遺跡 >					
第1表	土器観察表	89	第3表	土坑一覽	89
第2表	石器観察表	89	< 柄河 III 遺跡 >		
< 柄河 III 遺跡 >					
第1表	錢貨一覽	144	第5表	土坑一覽表	150
第2表	土器観察表	149	第6表	陥し穴状土坑一覽	151
第3表	土製品観察表	149	第7表	墓壙一覽	151
第4表	石器観察表	150	< 新里愛宕裏遺跡 >		
< 新里愛宕裏遺跡 >					
第1表	土器観察表 (1)	222	第10表	土器観察表 (8)	281
第2表	土器観察表 (2)	223	第11表	土器観察表 (9)	282
第3表	土器観察表 (3)	224	第12表	土製品観察表 (2)	283
第4表	土器観察表 (4)	225	第13表	石器観察表 (2)	283
第5表	土器観察表 (5)	226	第14表	石製品観察表	283
第6表	土器観察表 (6)	227	第15表	堅穴住居跡・堅穴状遺構一覽	287
第7表	土器観察表 (7)	228	第16表	土坑一覽 (1)	287
第8表	土製品観察表 (1)	228	第17表	土坑一覽 (2)	288
第9表	石器観察表 (1)	229	第18表	陥し穴状土坑一覽	288

写真图版目次

<九重沢Ⅲ遺跡>

写真図版1	調査区遠景	53
写真図版2	調査区近景、基本層序	54
写真図版3	1号竪穴住居跡	55
写真図版4	2号竪穴住居跡(1)	56
写真図版5	2号竪穴住居跡(2)	57
写真図版6	3号竪穴住居跡	58
写真図版7	4号竪穴住居跡(1)	59
写真図版8	4号竪穴住居跡(2)	60
写真図版9	5号竪穴住居跡	61
写真図版10	1・2号竪穴状遺構(1)	62
写真図版11	2号竪穴状遺構(2)、1号埋設 土器、1号土坑	63

<平野原Ⅲ遺跡>

写真図版1	調査区近景、基本層序、1号土坑	91
写真図版2	2~5号土坑	92
写真図版3	6~9号土坑	93

<楊洞Ⅲ遺跡>

写真図版1	調査区遠景	152
写真図版2	基本層序	153
写真図版3	1号竪穴住居跡(1)	154
写真図版4	1号竪穴住居跡(2)	155
写真図版5	1~4号土坑	156
写真図版6	5~8号土坑	157
写真図版7	8~11号土坑	158
写真図版8	12~16号土坑	159
写真図版9	17~20号土坑	160
写真図版10	21~24・33・37号土坑	161
写真図版11	25~28・30号土坑	162
写真図版12	28~32号土坑	163
写真図版13	34~36・50号土坑	164
写真図版14	38~41号土坑	165

<新里愛宕表遺跡>

写真図版1	北側調査区全景(1)	289
写真図版2	北側調査区全景(2)	290
写真図版3	北側調査区全景(3)	291
写真図版4	北側調査区全景(4)、 南側調査区全景	292
写真図版5	自然流路(1)	293
写真図版6	自然流路(2)	294
写真図版7	基本層序	295
写真図版8	1号竪穴住居跡(1)	296

写真図版12	2~5・7・8号土坑	64
写真図版13	9号土坑、1~4号焼土遺構	65
写真図版14	柱穴状土坑	66
写真図版15	出土遺物(1)	67
写真図版16	出土遺物(2)	68
写真図版17	出土遺物(3)	69
写真図版18	出土遺物(4)	70
写真図版19	出土遺物(5)	71
写真図版20	出土遺物(6)	72
写真図版21	出土遺物(7)	73
写真図版22	出土遺物(8)	74

写真図版4	10~13号土坑	94
写真図版5	14~17号土坑	95
写真図版6	18号土坑、出土遺物	96

写真図版15	41~44号土坑	166
写真図版16	45~48・56号土坑	167
写真図版17	49・51~54号土坑	168
写真図版18	53~55・57号土坑	169
写真図版19	58~61号土坑	170
写真図版20	62~65号土坑	171
写真図版21	68~69号土坑	172
写真図版22	70~72号土坑、作業風景	173
写真図版23	出土遺物(1)	174
写真図版24	出土遺物(2)	175
写真図版25	出土遺物(3)	176
写真図版26	出土遺物(4)	177
写真図版27	出土遺物(5)	178

写真図版9	1号竪穴住居跡(2)	297
写真図版10	1号竪穴住居跡(3)	298
写真図版11	1号竪穴住居跡(4)、 2号竪穴住居跡(1)	299
写真図版12	2号竪穴住居跡(2)	300
写真図版13	2号竪穴住居跡(3)	301
写真図版14	2号竪穴住居跡(4)、 3号竪穴住居跡(1)	302
写真図版15	3号竪穴住居跡(2)	303

写真図版16	1号炉跡、1号焼土遺構、 1号土坑	304	写真図版41	出土遺物 (11)	329
写真図版17	2~5号土坑	305	写真図版42	出土遺物 (12)	330
写真図版18	6~9号土坑	306	写真図版43	出土遺物 (13)	331
写真図版19	10~13号土坑	307	写真図版44	出土遺物 (14)	332
写真図版20	14~17号土坑	308	写真図版45	出土遺物 (15)	333
写真図版21	18~21号土坑	309	写真図版46	出土遺物 (16)	334
写真図版22	22~25号土坑	310	写真図版47	基本層序	335
写真図版23	26~28号土坑	311	写真図版48	1号竪穴状遺構	336
写真図版24	29~32号土坑	312	写真図版49	38~41号土坑	337
写真図版25	34~36号土坑、 1号陥し穴状土坑	313	写真図版50	42~45号土坑	338
写真図版26	2~5号陥し穴状土坑	314	写真図版51	46~49号土坑	339
写真図版27	北側調査区遺物包含層 (1)	315	写真図版52	50~53号土坑	340
写真図版28	北側調査区遺物包含層 (2)	316	写真図版53	54・55号土坑、 6・7号陥し穴状土坑	341
写真図版29	北側調査区遺物包含層 (3)	317	写真図版54	8~10号陥し穴状土坑、 2号焼土遺構	342
写真図版30	北側調査区遺物包含層 (4)	318	写真図版55	柱穴状土坑 8~11	343
写真図版31	出土遺物 (1)	319	写真図版56	旧沢跡 1・2	344
写真図版32	出土遺物 (2)	320	写真図版57	出土遺物 (17)	345
写真図版33	出土遺物 (3)	321	写真図版58	出土遺物 (18)	346
写真図版34	出土遺物 (4)	322	写真図版59	出土遺物 (19)	347
写真図版35	出土遺物 (5)	323	写真図版60	出土遺物 (20)	348
写真図版36	出土遺物 (6)	324	写真図版61	出土遺物 (21)	349
写真図版37	出土遺物 (7)	325	写真図版62	出土遺物 (22)	350
写真図版38	出土遺物 (8)	326	写真図版63	出土遺物 (23)	351
写真図版39	出土遺物 (9)	327	写真図版64	出土遺物 (24)	352
写真図版40	出土遺物 (10)	328			

I 調査に至る経過

「新里愛宕裏遺跡、九重沢Ⅲ遺跡、枡洞Ⅲ遺跡、平野原Ⅲ遺跡」は、東北横断自動車道釜石秋田線(遠野住田～遠野間)の施工に伴って、その事業区域内に存在することから発掘調査を実施することになったものである。

東北横断自動車道釜石秋田線は、釜石市を起点として、遠野市、奥州市を經由し、花巻市にて東北縦貫自動車道に合流し、さらに北上市にて分岐し、西和賀町、横手市、大仙市を經由して秋田市に至る総延長211kmの高規格幹線道路である。近年では平成24年11月に宮守～東和間(23.7km)、平成27年12月に遠野～宮守間(9.0 km)が供用された。

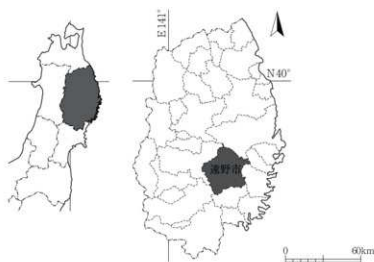
本路線は、釜石港、大船渡港といった重要港湾や観光資源豊富な三陸復興国立公園を有する三陸地方拠点都市地域と、先端技術産業の集積が著しい北上中部地方拠点都市地域や花巻空港を要する岩手県内と秋田県を結び、周辺地域のみならず岩手・秋田両県全域の産業経済発展を担うこと並びに緊急時における代替・迂回路ネットワーク機能の強化を目的とした路線である。また、東日本大震災からの復興に向けたリーディングプロジェクトとなる復興支援道路の一部でもあり平成23年度に事業化し、平成25年度には、区間の一部で工事着手している。

上記の4遺跡については、国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所の依頼を受けた岩手県教育委員会が平成24年度に分布調査、平成25年度に試掘調査を実施し遺構が確認された。

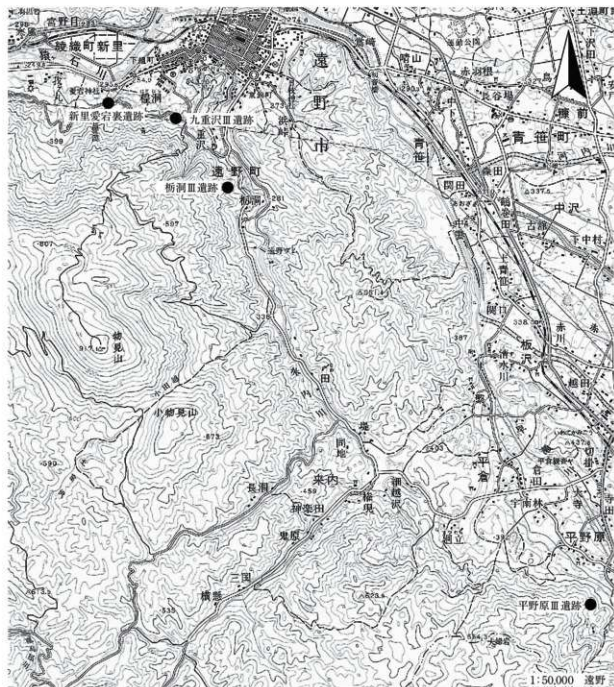
その結果を踏まえて岩手河川国道事務所は、岩手県教育委員会との調整のもとに、発掘調査を公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化センターの受託事業とすることにした。

これにより平成26年4月1日付けで岩手河川国道事務所長と公益財団法人岩手県文化振興事業団理事長との間で受託事業を締結、上記4遺跡の発掘調査に着手した。また、新里愛宕裏遺跡については平成27年9月1日の残調査箇所の発掘調査に着手した。

(国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所)



第1図 岩手県全体図



第2図 遺跡位置図

II 地理的・歴史的環境

1 地理的環境

九重沢Ⅲ遺跡・新里愛宕裏遺跡・平野原Ⅲ遺跡・柗洞Ⅲ遺跡は岩手県遠野市に所在する。4つの遺跡の所在する遠野市は、北上高地中南部の遠野盆地に位置する遠野南部藩一万三千石の城下町である。北は宮古市川井、東は釜石市・上閉伊郡大槌町、南は気仙郡住田町・奥州市江刺区と、西は花巻市東和と大迫の4市2町と隣接する。面積は825.6km²である。人口は29,875人(平成24年3月1日時点)を有

し、古来より内陸と沿岸を結ぶ中核都市である。

遠野市は北上山地のほぼ中央部に開けた遠野盆地に位置する。遠野盆地は薬師岳に源を発する猿ヶ石川(73.1km)とその支流である小鳥瀬川・来内川・早瀬川、さらにその支流である河内川、猫川などがこの北上山地の一部を開析して作った南北30km、東西20kmに及ぶ北上山地最大の盆地である。北方には主峰早池峰山の姿が望まれ、東には一つ石山、貞任山、六角牛山などの早池峰山の支脈が南北に走り、南には物見山、西には石上山、北には天ヶ森・薬師岳のなだらかな山稜が並ぶ。

遠野盆地は、北上山地を大きく西北から南東方向へ延びる地質構造線(土淵-盛岡構造線、遠野-高館構造線、日詰-気仙沼構造線など)によって、その東・西縁を限られて形成されたと推定される。さらに、これら地質構造線や地質境界線などの多他所への弱線浸食作用によって、盆地底の拡大がなされた浸食盆地的な性格を有している。盆地の南西には山地、山麓には岩塊流および、山麓緩斜面が発達する。山地を除き、大別して四つの地形面から構成・区分されている。一つは盆地を取り囲む山麓斜面上に展開する標高300~400mの高位緩斜面、この緩斜面よりも低位の標高250~350mの緩斜面、さらに盆地底の現河川沿いに河床より1~5mの比高差をもつ沖積面がある。

この盆地の主部は、遠野花崗岩体と呼ばれる岩体で占められ、盆地東縁及び西縁においては、古・中生界の粘土板岩、輝緑凝灰岩なども分布する。盆地東部や南部の洪積層には橙色~赤褐色の風化火山灰が堆積しているものの、出現については不明である。また、盆地一帯の洪積台地及び、沖積平野にはクロボク土壌が発達し、この中には4枚の構成からなる黄色火山灰層が挟在する。

以下に4遺跡の所在地と地理的な概要を記す。九重沢Ⅲ遺跡は遠野市役所から南西約1.2km、遠野市遠野町30地割に所在し、猿ヶ石川の支流である来内川によって形成された河岸段丘上に立地している。本遺跡の東200mに平成14年に発掘調査が行われた九重沢遺跡が所在する。

新里愛宕裏遺跡は遠野市役所から南西約2.0km、遠野市新里に所在し、猿ヶ石川によって形成された河岸段丘上に立地している。

平野原Ⅲ遺跡は遠野市役所から南東約7.4km、遠野市上郷町平倉に所在し、猿ヶ石川の支流である早瀬川の西岸に位置する砂岩段丘上に立地する。遺跡は尾根の中ごころで、北側には尾根が続き、東側には沢が確認できる。

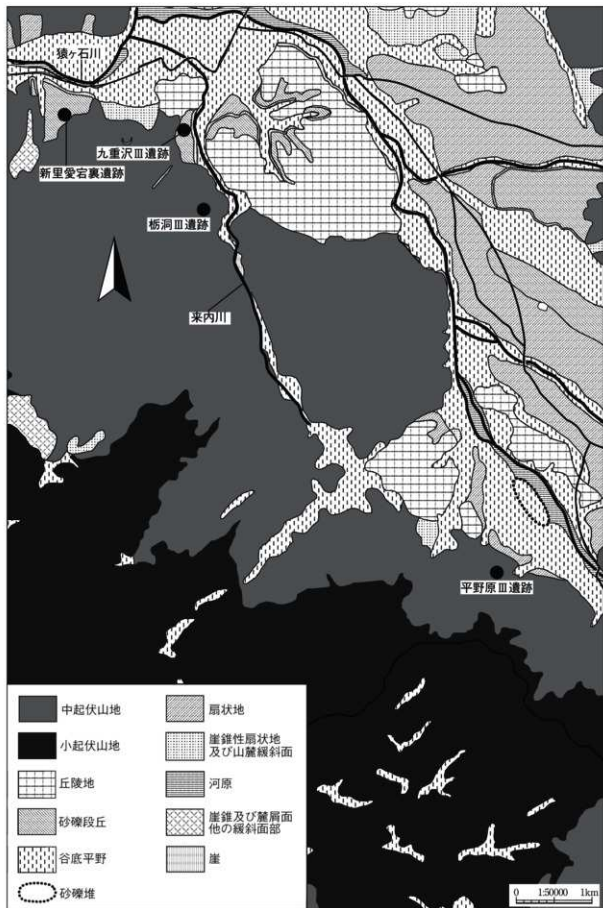
栃洞Ⅲ遺跡は遠野市役所から南西約1.6km、遠野市遠野町に所在し、猿ヶ石川の支流である来内川によって形成された河岸段丘上に位置している。

2 歴史的環境

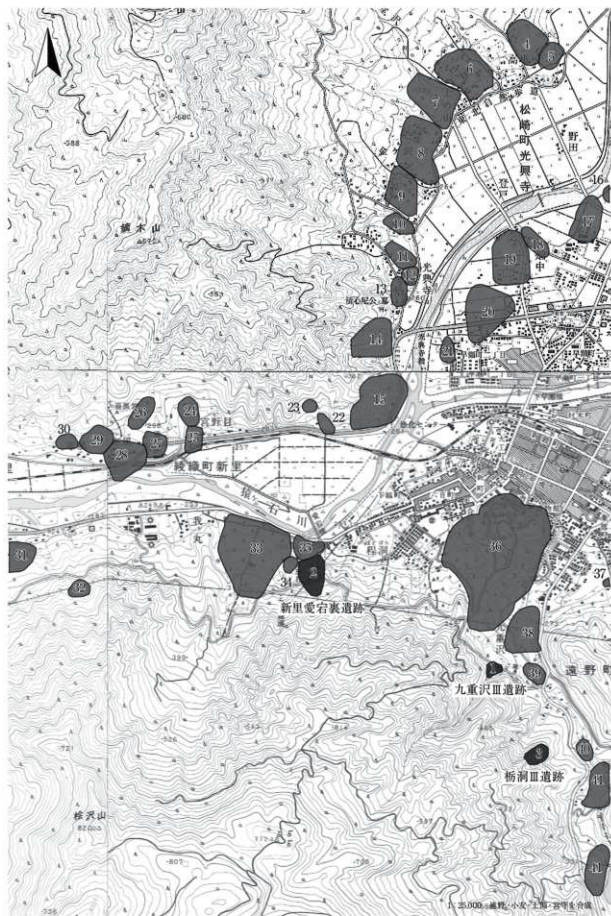
岩手県遺跡台帳によると、遠野市には486箇所の遺跡が登録されている(平成26年3月31日時点)。遺跡は河川沿いに多く確認されており、猿ヶ石川とその支流によって開析された遠野盆地は段丘面と沖積地の2つに大きく分けられている。この地形の違いによって遺跡の時代も異なる傾向が確認できる。猿ヶ石川とその支流によって形成された丘陵地や扇状地の段丘、微高地には縄文時代の遺跡の大半が立地し、猿ヶ石川流域の沖積地には古代の遺跡が立地する。

今回の調査では九重沢Ⅲ遺跡・新里愛宕裏遺跡・栃洞Ⅲ遺跡の遠野市遠野町付近の周辺遺跡(第4図・第1表)、平野原Ⅲ遺跡の遠野市上郷町の周辺遺跡(第5図・第2表)を記載する。

九重沢Ⅲ遺跡(1)・新里愛宕裏遺跡(2)・栃洞Ⅲ遺跡(3)は猿ヶ石川の南岸に位置し、九重沢Ⅲ遺跡・栃洞Ⅲ遺跡は支流の来内川によって形成された段丘上に位置する。遠野市内の縄文時代遺跡は猿ヶ石川、来内川沿いに散布地遺跡が多く確認されている。



第3図 地形分類図



第4図 周辺遺跡分布図(1)

第1表 周辺遺跡(1)

番号	遺跡名	種類	時代	遺構・遺物	番号	遺跡名	種類	時代	遺構・遺物
1	九重沢Ⅰ	散布地	縄文(後期)	土器, 埴輪Ⅱ	22	上宮野Ⅰ	散布地・集跡	古代・近世	土器, 土師器, 須恵器
2	新里安谷Ⅱ	集落跡	縄文	縄文土器	23	宮野Ⅰ	環壕	古代	陶器
3	松前Ⅰ	集落	縄文・古代	土師器, 竪穴	24	宮野Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器(早期)
4	高橋	散布地	古代	土師器	25	宮野Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器(早・前期)
5	東郷	城跡	縄文	土師器	26	寒風Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器
6	上ノ山	散布地	縄文・古代	縄文土器, 土師器	27	寒風Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器(前期)
7	横田城(護摩堂館)	城跡	中世	堀, 塀, 礎石	28	寒風Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器(早期)
8	金ヶ沢Ⅰ	集落跡	縄文	縄文土器, 石器	29	寒風Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器(早期・前期?), 石鏃
9	金ヶ沢Ⅱ	集落跡	縄文	縄文土器	30	寒風Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器(早?), 前期?)
10	天神Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器	31	日影	散布地	縄文	土器, 石器, 石鏃
11	天神Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器	32	西風館	城跡	中世	堀, 平埴, 塀
12	天神Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器	33	新里間本野	散布地	縄文・古代	縄文土器(前・後期), 土師器, 須恵器, 石器, 石鏃, 石鏃
13	天神Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器	34	新里新滝	散布地	縄文	縄文土器(前期)
14	光興寺館	城跡	中世	堀, 土蔵, 平埴, 帯石	35	新里Ⅱ段埴	散布地	縄文	縄文土器
15	角鼻館	城跡	中世	堀	36	鍋倉城	城跡	中世・近世	本丸, 二の丸, 三の丸, 馬場
16	薬研Ⅰ	散布地	古代	土師器	37	滝野Ⅱ	貯場・集落	縄文・近世	貯し穴, 掘り柱建物
17	薬研Ⅱ	散布地	古代	土師器	38	九重Ⅱ	散布地	縄文	弥生環状石塔
18	畑中	散布地	古代	土師器	39	九重Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器
19	大柳	集落跡	縄文・古代	縄文土器, 土師器	40	柳野Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器
20	下柳Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器	41	大石塚山野Ⅱ	集落跡	縄文	青灰色土器, 埴輪
21	下柳Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器(晩期)	42	下田	散布地	縄文	縄文土器

縄文時代早期の遺物が寒風Ⅰ遺跡(28)から出土している。前期では国指定史跡である綾織新田遺跡が挙げられる。前期前葉の大型竪穴住居跡だけからなる拠点集落跡では、国内最古であるということ、全国でも出土例の少ない大木3式土器がまとめて出土したことから、平成14年12月19日に国史跡に指定された。前期の遺物が寒風Ⅱ遺跡(30)、新里間木野遺跡(33)、新里新滝遺跡(34)から出土している。中期の遺跡は数が少ない。後期には新里間木野遺跡、柳野Ⅱ遺跡(40)周辺に位置している。晩期は下柳Ⅱ遺跡(21)、柳野遺跡が挙げられる。遠野市内には縄文時代早期～晩期まで幅広くみられるが、後・晩期の遺跡が最も多く確認されている。九重Ⅲ遺跡・柳野Ⅲ遺跡の周辺では発掘調査が行なわれ、図版の範囲には含まれないが、柳野遺跡は平成15・16年に遠野市教育委員会の調査で縄文時代中期～晩期の遺跡であることが確認された。柳野Ⅱ遺跡は平成15年の当センターによる調査によって、縄文時代前期前葉、後期前葉の遺構と早期～晩期の遺物が確認されている。九重Ⅲ遺跡は平成16年の調査によって縄文時代早期～前期前葉の遺物包含層と遺構が確認された。

弥生時代の遺跡は九重Ⅱ遺跡(38)であり、弥生環状石塔が出土している。

古代の遺跡の分布は、縄文時代と比較してやや平坦な面を利用していることが明らかである。薬研Ⅱ遺跡(17)や畑中遺跡(18)、大柳遺跡(19)などは猿ヶ石川と早瀬川に挟まれた土地を利用していたと考えられる。

中世では西風館(32)、角鼻館(15)、光興寺館(14)、横田城(護摩堂館)(7)、東館(5)、鍋倉城(36)が挙げられる。横田城(護摩堂館)は遠野十二郷保を治めていた阿曾沼氏が築いたものである。阿曾沼氏は下野国阿曾沼郷を本貫の地とする一族で、代官として親領の宇生方広房を遣わし遠野を治めていた。やがて、阿曾沼朝兼が下野阿曾沼家よる分家し、遠野に移り住む際に築城したものである。その後、阿曾沼広郷が領主であった天正年間(1573～1592)に横田城から鍋倉城へと移転している。慶長5年(1600)には、領主阿曾沼広長の不在を狙い鱒沢広勝が鍋倉城を占拠し、三戸南部氏の支配下に入り、近世盛岡藩の一部となったが、城代の交代などで、遠野城下の治安が悪化している。遠野は仙台藩と境を接する要所であり、盛岡藩主南部利直は八戸を本拠地としていた根城南部氏を遠野に移し、治めさせている。

一方、平原Ⅲ遺跡は猿ヶ石川の支流である早瀬川と猫川の合流地点より約3km南に位置し、早瀬川にそそぐ沢で形成された尾根上に位置する。縄文時代前期の遺跡では猫川と早瀬川の間に位置する林崎Ⅰ遺跡(22)がある。林崎Ⅰ遺跡は縄文時代前期から中期まで継続する遺跡である、縄文時代中



第5図 周辺遺跡分布図(2)

第2表 周辺遺跡(2)

番号	遺跡名	種別	時代	遺構・遺物	番号	遺跡名	種別	時代	遺構・遺物
1	宇野原Ⅱ	散佈地	平安	土器、土坑、方形プラン、中層	20	火尻Ⅱ	散佈地	平安	土師器
2	清水川Ⅰ	集落跡	縄文	縄文土器(後期)、石礫、石斧	21	林崎Ⅲ	散佈地	縄文	縄文土器
3	幸岡一里塚	一里塚	江戸		22	林崎Ⅰ	集落跡	縄文	縄文土器(前末~中期)、磨製石斧、土鍋、石鏃、石鏃
4	清水川Ⅱ	散佈地	土器		23	林崎Ⅱ	散佈地	縄文	縄文土器
5	伊原	散佈地	縄文・平安	縄文土器、土師器	24	森ノ下Ⅱ	散佈地	縄文	縄文土器
6	野坪前	散佈地	土器		25	宇南田Ⅱ	散佈地	縄文	縄文土器
7	赤沢Ⅱ	散佈地	土器		26	宇南田Ⅰ	散佈地	縄文・平安	縄文土器(晩期)、土師器
8	赤沢Ⅰ	散佈地	縄文	縄文土器	27	森ノ下Ⅰ	散佈地	縄文	縄文土器
9	出原Ⅰ	散佈地	平安	土師器	28	原Ⅱ	散佈地	縄文	縄文土器
10	出原Ⅱ	散佈地	平安	土師器	29	太田原	城跡跡	中世	堀、土坑、平埴、菅葺
11	甲子Ⅰ	散佈地	縄文	縄文土器	30	上田一里塚	一里塚	江戸	
12	越田	城跡跡	中世	堀、平埴、菅葺、土坑	31	寺尾敷	散佈地	縄文	縄文土器
13	刈家前	城跡跡	中世	堀、平埴、菅葺、土坑	32	岩塚	散佈地	縄文	縄文土器、石礫、石鏃、土器、菅葺、平埴、菅葺
14	切敷	散佈地	縄文	縄文土器、石礫	33	篠船(関口跡)	散佈地・城跡跡	縄文・中世	
15	地崎	集落跡	縄文	縄文土器(晩期)、石斧、石礫	34	滝ノ沢	散佈地		
16	平倉観音	散佈地	縄文	縄文土器(後末期)、深口土器	35	平倉	散佈地	縄文	縄文土器、磨製石斧
17	林崎前	城跡跡	中世	堀、菅葺	36	宇南林	城跡跡		
18	笠懸Ⅱ	散佈地	平安	土師器	37	平野原	散佈地	縄文	縄文土器(中期)、石礫
19	次見Ⅰ	散佈地	縄文	縄文土器	38	平野原Ⅱ	散佈地	縄文	縄文土器

期の遺物は平野原遺跡(37)で確認されている。後期の遺跡は清水川Ⅰ遺跡(2)である。晩期になると遺跡数も増え、地崎遺跡(15)、平倉観音遺跡(16)、宇南田Ⅰ遺跡(26)で晩期の遺物が確認されている。

弥生時代の遺跡は周辺には確認できなかったが、古代の遺跡として伊原遺跡(5)、河原Ⅰ遺跡(9)、河原Ⅱ遺跡(10)、切掛Ⅱ遺跡(18)、火尻Ⅱ遺跡(20)、宇南田Ⅰ遺跡が挙げられる。

中世には刃金館(13)、林崎館(17)、太田館(29)、篠館(関口館)(33)が確認されている。自然丘陵や山裾を利用して、館を築いていたと考えられる。また、赤川一里塚(3)、三田一里塚(30)の江戸時代の一里塚も確認されている。

引用・参考文献

遼野市史編集委員会1974「遼野市史」第一巻

遼野市史編集委員会1974「遼野市史」第一巻

遼野市教育委員会2005「柵洞遺跡 - 個人宅地造成に伴う発掘調査報告書 - 」遼野市埋蔵文化財調査報告書第15集

遼野市教育委員会 2012「鍋倉城本丸跡発掘調査報告書」遼野市埋蔵文化財調査報告書第10集

(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2003「柵洞Ⅱ遺跡」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財報告書第436集

(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2004「九重沢遺跡」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財報告書第435集

(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2014「新田Ⅱ遺跡」岩手県文化振興事業団発掘調査報告書第622集

国土交通省水管理・国土保全局2013「北上川水系の流域及び河川の概要」

Ⅲ 野外調査と室内整理の方法

1 野外調査の方法

遺構名は検出順に付与した。発掘調査中は略号(SⅠ・SⅡなど)を用いたが、本書では「1号竈穴住居跡」、「1号土坑」と表記した。また、フラスコ状土坑も土坑として表記している。遺構の規模は平面形規模・深さを「m」で表現した。遺構図面は点検後、必要に応じて第二図面を作成した。図版中の縮尺には個々にスケールを付した。なお、スクリーントーンの種類は使用した図版ごとに付している。

2 室内整理の方法

発掘調査終了後の整理作業は、当センター内にて行った。遺構の平面図および断面図は電子平板で作成し、EPS形式で保管している。遺構等写真はアルバムにより整理を行った。報告書に掲載する遺構写真は選択後、Adobe InDesignによって割付を作成した。

遺物は、洗浄および注記後各種別に分類した後出土地点ごとに重量計測を行い、接合作業を実施し、必要なものは石膏による復元作業を行い、掲載分と不掲載に細分類し、前者については仮番号を付し登録を行った。登録にあたっては、土器は算用数字、石器はSⅠ…のように種別ごとに異なるアルファベットと番号を付している。その後、報告書掲載遺物が最終的に決定した段階で、新たに算用数字の連番による掲載を付した。登録後、実測と写真撮影を行った。掲載遺物の選択基準は、実測可能な残存状況を原則とし、土器類の破片については特徴から時期や土器型式を特定できるものを中心とした。遺物の実測作業は、原寸での実測を基本とした。実測を行った遺物は浄書し図版用の版下を作成した。また、縄文土器器面表面は湿拓によって採拓した。遺物の写真撮影はデジタルカメラを用いて行い、データを編集し写真図版として掲載した。遺物写真はJPEG形式で保管している。全ての処理が終了した遺物は、本書掲載遺物と不掲載遺物に分けて所定の場所へ収納した。